

【緊急声明】

拘束された3邦人を見殺しにしてはならない
- 自衛隊のイラクからの撤兵を求める -

2004年4月9日
自由法曹団団長 坂本 修

- 1 イラクの武装グループが、日本の民間人3名を人質に、「日本人はいま、我々の手にある。あなた方が撤退するか、我々が3人を生きたまま焼き殺すかだ」として、3日以内に自衛隊が撤退することを要求するメッセージを發した。

拘束されているのは、劣化ウラン弾廃絶の活動を行ってきた今井紀明さん（北海道札幌市18才）、ストリートチルドレン救済活動に携わってきた高遠菜穂子さん（北海道千歳市34才）、そしてフリージャーナリストの郡山総一郎さん（東京都杉並区32才）の3名である。

私たちは、米英らによる大義なき戦争と、ひきつづく武力占領、そして米に協力加担する自衛隊の出兵を厳しく批判してきたが、だからといって、こうした行動には与していない市民を拘束し、その殺害を予告してくるような行動を容認することは絶対にできない。

- 2 しかしながら、目の前の事態において、何をおいても優先されるべきこと、それは3名の生命の安全であり、無事にその身柄を解放することにある。

政府は、人質解放のために全力を尽すと表明しているが、3日という限られた期限内に有効な救出手段を持ち合せていない現状においては、日本国憲法（第9条）にも、イラク特措法にも反して、大義なき戦争の首謀者であるアメリカの要求に従って違法に出兵させた自衛隊を撤退させることを真剣に検討すべきである。

- 3 福田官房長官は、昨夜の記者会見において、「自衛隊は人道復興支援を行っており、撤退する理由はない」と発言した。政府関係者やマスコミの一部からは、テロに屈してはならないという声あげられている。

しかし、こうした態度は全く逆立ちしている。イラク戦争が大義のない違法な戦争であることも、自衛隊が、こうした戦争と占領を支援するためのものであることも、すでに明白である。現に、武装したアメリカ兵を航空自衛隊が空輸するなど、「人道復興支援」などとはとてもいえない活動をしている。こうした出兵に、今回の事件を招いた大きな理由がある。このことに口をつぐんで、罪のない民間の日本人3名の生命を危険にさらすことにはなんの道理も存在しない。とりわけ、政府としては無責任の限りである。

- 4 事態は緊急を要しており、このままでは、昨年11月の2人の外交官の死に続いて民間人3名が犠牲になる可能性は高いと言わざるをえない。

政府は、自衛隊の撤退を決断すべきである。それが、世界の平和を実現する道であり、世界平和のために真摯に活動してきた3邦人の生命を守る道である。

自由法曹団は、自衛隊のイラクからの撤退を強く要求して活動してきたが、この緊急かつ重大な事態を前にして、政府が速やかに自衛隊を撤収することを時機を失せず、内外に明らかにすることを強く要求するものである。